

労使合同 提言 若者の県内就職促進を!

若年者に対し、県内への就職促進と就職後の定着率を向上させるため、連合群馬と群馬県経営者協会とで作成した労使合同提言を4月24日に、大澤知事へ提出しました。



提言を受け取る
大澤知事（右）

はじめに、群馬県経営者協会の児玉会長から「若い人に県内に留まってもらうためには、安定して働けることが大切です。公労使で協力して推進していきたい」連合群馬の北川会長からは「労使の取り組みに、県のサポートしていく仕組みが融合すれば大きな効果が期待できる」との挨拶がありました。

提言を受け取った大澤知事からは、「人口減少、少子高齢化が進む中、今回の提言を重く受け止め、若者の正規雇用促進に向け、取り組んでいきたい」とのコメントがありました。

この取り組みは、連合群馬と経営者協会とで、労使合同研究委員会を設置し、2003年から定期的に労使間では解決困難な県内の労働に関わる難しい問題について提言しています。

労使合同提言内容（抜粋）

テーマ「若年者の県内就職促進と就職後の定着率の向上」

1. インターンシップ促進部門の設置

県内企業のインターンシップ受け入れ情報をホームページ等で公開すること。学生と企業とのマッチング体制を構築し、提案できる環境づくり

2. 中小企業で活躍している若手社員と学生との交流の場の提供

中小企業で活躍する若手社員と学生とが直接交流できる場の提供や、ネットミーティングなどを用いて、間接的に交流できる環境づくり

3. 保護者や教員に対する就労観・職業観を高める教育の実施

就労観や職業観に関して、経営者団体や労働組合から保護者や教員へ直接伝える場の提供

4. 若年者向け仕事紹介の場の提供

○ 仕事紹介ホームページの開設

「群馬県の仕事」の紹介や職場見学ができるような動画やマンガなどを作成し、ホームページや学校の授業などで、県内の様々な業種毎の仕事を紹介することで、小中学校の段階で自分がやりたい仕事をイメージできる環境づくり

○ 親子での企業見学会の開催

県内の様々な企業や業種を実際に見て・聴いて・感じられるよう、土日祝日や、夏休みなどに親子での企業見学会を開催すること

命の大切さを語り継ぐ 平和学習会 開催



4月5日、群馬県勤労福祉センターで2014平和学習会を開催し、産別・地協を中心に125人が参加しました。

平和学習会は、連合が開催する4つの平和集会（沖縄・広島・長崎・根室）への参加者から、戦争の爪跡や各地に赴き現地で体験したことを学習を通じ組合員へと伝え、平和意識の高揚につながるよう開催しています。

今年の学習会では県内での戦争被害を知ってもらおうと、8歳で前橋空襲を体験し、現在は「あたご歴史資料館」の学芸員として、前橋空襲を語り継ぐ活動を行っている原田恒弘さんから当時の体験が生々しく語られました。

原田さんは、空襲時防空壕にいましたが、火災の煙で防空壕内の多くの人々が亡くなり、壕の外では多くの人々が炎に焼かれ、爆弾の破片で傷つき地獄絵図

を見たとの体験を振り返りながら、「見て、聴いて、体験することはとても大切な事。それをもとに命の大切さについて考えて欲しい。今日の社会情勢は、戦前に戻っているように感じる。一人ひとりが、きちんと過去と向き合って未来に向かっていかないと同じ過ちを繰り返すことになるかもしれない」と平和を考えることの重要さを訴えました。

その後、各平和行動派遣団の代表から体験報告が行われ、「派遣団に参加し改めて平和の大切さを感じた」「風化させることなく語り継ぎ、平和について考え、求めていかなければならない」との感想がありました。

連合では、6月から9月を平和行動月間として様々な取り組みが行われ、連合群馬でも、核兵器廃絶を求める署名活動やパネル展、平和派遣団を通じて、平和について考える取り組みを行いますので、皆様のご協力をお願いします。



広島親子団代表 川田さん親子
(日野自動車労組)



沖縄団代表 川島さん
(ルネサスエレクトロニクス労組)



広島団代表 関口さん
(玉村町職)



長崎団代表 清水さん
(J R東労組)



根室団代表 福島さん
(関東電化労組)